

国土審議会政策部会第1回集落課題検討委員会議事概要

1. 日時

平成21年5月26日(火) 12:45～14:30

2. 場所

三田共用会議所「大会議室C, D, E」

3. 出席委員(敬称略)

奥野委員長、井上、小田切、岡崎、辻、広瀬、深井、藤山

4. 議事(概要)

(1) 開会

(2) 国土交通省あいさつ

(3) 委員長代理指名

奥野委員長が委員長代理に小田切委員を指名

(4) 議事

[1] 過疎集落研究会における検討について

[2] 委員会での当面の検討内容について

(5) 閉会

5. 議事及び主な発言内容

(1) 国土交通省あいさつ

○川本国土計画局長よりあいさつ

(2) 議題1 過疎集落研究会における検討について

議題2 委員会での当面の検討内容について

○議題1について事務局から説明。過疎集落研究会座長の小田切委員から追加説明。

議題2について事務局から説明。その後意見交換。主な発言は以下のとおり。

- ・2015年は、団塊の世代が高齢者になり、高齢化率について都市の団地が中山間地を上回り、さらに昭和一桁世代が80代になるなどから重要な年であり、このような時代の転換期において、集落の消滅、財産・資産の流出が本格化することが見込まれるため、地域の資源や知恵の棚卸しが重要。
- ・中山間地をこれまでのように条件不利地としてとらえるのではなく、資源やエネルギー面などでの条件優位性を打ち出して、都市との共生関係をつくる必要がある。
- ・住み続けたい人をいかに支えていくかという点だけではなく、若い人たちが生活し続けられる経済的基盤をつくるのが重要。
- ・これからは、地域の違いを認識した上で、いろいろなパターンを考えながら国土計画をつくっていく必要がある。
- ・管理放棄地に関連して、かつて、コミュニティを支える基盤として入会制度があった

が、人とコミュニティとの一体化という観点から、このような制度が必要なのではない。

- ・医療を中心として地域づくりの議論を行うことが重要。
- ・つながり感のうすい社会になっていることから生じている問題が多いことから、過疎問題の根本療法として、都市との交流活動をとおして、個人的な顔見知りになったり、都市からのまなざしを受けて誇りを持てるようになって心の空洞化を防ぐといった、つながり感を持てるような取組が必要。
- ・全国一律の施策ではなく、多軸的な制度が必要であり、多岐にわたる問題に対応するためにも、一国二制度を進めていくべき。
- ・集落として機能しているところでは、昭和一桁世代から団塊の世代へのバトンタッチはできるが、機能していない場合、集落の担い手をつくるための意図的な取組が必要。
- ・これからの社会で対応できなくなっている法令はたくさんあることから、今の時代にあった法令の制定が必要。
- ・プライマリーケアは約 2,000 人が一つの単位となり、救急疾患はそれ以上のマスを必要とすることから、両者は明確に分けて考えるべき。前者については、社会の要請として、きちんと行き届くよう整備することについて声を上げることが大事。
- ・「小さな拠点」の対象範囲について、コンビニエンスストアでは1～1万5千人であることなどを考慮すると、もう少し大きな単位でないと民間主体では維持が難しいのではないかと。
- ・今まで集落単位で施設を作ってきたので、基本的な考えとしては施設は作らない、それを維持管理していくという発想はよい。新たに集約して施設を作るなり、既存施設を統合する場合、集落単位の施設の機能を維持していくのと逆の方向がでてくる可能性がある。ここのところで一般的な回答があるのか、地域モデルとするのか、これから議論していきたい。
- ・公共交通手段の確保は、あまりうまくいっている例がなく、難しい問題。米国では、運転できる人は郊外に残り、できない人は都市に移住している。
- ・介護保険の現金給付をどこまで認めるかという点も重要。
- ・集落をどういうレベルで存続させるかは難しい問題。居住者は取り残されている不安で切羽詰まった状況。機械的に集約するといった議論は極力出さないという視点をきちっともつことが必要であり、そうしないと一気に過疎化が進む。
- ・専門的な技術をもった農林業者が集落を拠点にして周辺の農業者を取り込んで都市と組んだ経営を行っているような新しい試みもできおり、こうした人たちへの支援の仕組みが必要。
- ・集落に対する支援や外部人材の活用について、条件さえ合えば集落を支援したいと考えている都市住民はかなりいることから、このような都市住民と集落が抱える多様なニーズとをマッチングするような制度的なフレームが必要。
- ・本委員会では、メッセージ性の強いものを打ち出していく必要があり、議論を終えたものから逐次、制度化を検討する必要がある。
- ・地域の人々が実感をもって安心して暮らせるよう住民を大事にすることが重要であり、その点を踏まえて「小さな拠点」をつくっていくべき。

- 例えば小学校と高校のように小さな拠点と二次生活圏との関係をどうするのかといった議論が必要。
- 管理放棄地の問題は切実。

(速報のため、事後修正の可能性があります。)